

平成25年度
普及活動成果集

「元気な産地・担い手」
「雇用を活かした収益性の高い経営」
「若手・女性が活躍する都市型農業」



簿記講座



「ちくしW2号 (ラーク)」実証ほ



博多特産の「あまおう」



トルコギキョウ目合わせ



フランドみかん「紅まる君」



すくすく元気な子牛

福岡農林事務所福岡普及指導センター

平成26年3月

平
秋の穂発
下、ま
低下福
筑紫
等団
普及
町、ま
筑紫
ど新
平
業・
欲の
年就
経営
策が
ます。
普
収益
して
活動
ご活

- 1 元 C 水 躍 C 雇
- 2 C 雇 C ト 若
- 3 C

目 次

	ページ
1 普及活動の成果	
(1) 次代を担う農業者の育成	1
(2) 女性の視点を活かした農業経営を目指して	2
(3) 水田農業の永続性のある担い手を目指して！	3
(4) 望まれる米・麦・大豆づくり	4
(5) 「あまおう」の生産力向上と産地担い手の育成	5
(6) ブロッコリーの根こぶ病防除と出荷平準化による安定出荷	6
(7) キクの安定生産に向けて！	7
(8) ホオズキの戸当たり販売額が過去最高に上がった！	8
(9) カンキツ産地の維持・活性化に向けて！	9
(10) 酪農経営の生産基盤強化	10
(11) 元気な子牛と高品質「博多和牛」生産への取り組み	11
(12) 安全・安心農産物の生産拡大！	12
2 各種表彰の紹介	13～14
3 資料一覧	
(1) 現地活動情報一覧	15
(2) 平成25年度の気象概況	16
(3) 普及指導センターの活動体制	17

(No1) 次代を担う農業者の育成

～新規就農者の早期経営確立を支援～

【対象の概況】

認定就農者及び青年就農給付金（経営開始型）
交付者を含む就農4年未満の新規就農者

【課題化の背景】

新規就農者は経営の安定までに時間がかかり、
早期の経営確立に向けた支援を行うことが必要で
す。また、24年度から始まった新たな就農支援施
策（青年就農給付金制度）の実施もあり、農業教
育を受けないまま就農した新規就農者も増加傾向に
あります。

そこで、就農4年未満の新規就農者を対象に、地域農業や農業技術及び経営の
基礎について講座を開催しました。



写真1 土壌診断の実技

【活動の内容】

(1) 営農基礎力強化講座の開催

農業士の講話、現地見学、普及指導員から農
業の基礎知識、基礎技術に関する実技、講義、
福岡クボタでの農業機械の研修など計6回の講
座を開催（写真1、2）

(2) 経営管理基礎講座の開催

センターのパソコン室を活用して、普及指導
員による複式簿記の基礎、パソコン簿記に関す
る講座を計4回開催



写真2 先輩農業者に学ぶ

【活動の成果】（表1）

(1) 営農基礎力強化講座を16名の新規就
農者が受講し、理解度も高く、農業の基
礎知識や技術の習得に役立っています。

(2) 経営管理基礎講座を5名が受講し、
業簿記の基礎知識を習得できました。

(3) 今後もこのような講座を開催するこ
とにより、新規就農者の早期経営確立を支援
します。

表1 受講生の理解度

回	内 容	理解度 平均
1	先輩農業者に学ぶ(講話)	4.5
2	農業の基礎知識	3.2
3	土壌の基礎知識	4.1
4	病気や害虫、農薬の基礎知識	4.2
5	農業機械の安全使用	4.6
6	先輩農業者に学ぶ(現地見学)	4.5
1~4	経営管理講座(複式、パソコン簿記)	3.6

*1~5段階評価(1:わからなかった、3:わかった、5:よくわかった)

(取組期間：平成24年度～25年度)

(No2) 女性の視点を活かした農業経営を目指す

～女性農業者の経営参画を支援～

【対象の概況】

- 経営ビジョン作成研修…経営ビジョン作成に意欲的な女性農業者
- 経営発展研修 …経営発展に意欲的な女性農業者 7人
- 他産業派遣研修 …経営発展に意欲的な女性農業者 2人

【課題化の背景】

女性農業者が農業に携わるきっかけは多様化しており、農作業習得部会で習得しています。一方経営に関する研修は自宅で習う機会が少なく、普及指導センターでは農業経営の参画を促す目的で研修を行いました。

併せて、専門家による講義、ワークショップ、他産業での実践経験、商工業の経営的な視点を取得する県域での新しい取組に参画しました。

【活動の内容】

(1) ビジョン作成研修 (写真)

- 第1回 先輩女性農業者との意見交換
- 第2回 我が家の経営状況を確認しよう
- 第3回 個別相談会 (課題、今後の目標)
- 第4回 農業機械操作研修
- 第5回 流通研修 (青果物店、米カフェ)
- 第6回 経営ビジョン専門家相談



(2) 経営発展研修

- 専門家による講義、事例発表、ワークショップなど5回の講座

(3) 他産業派遣研修

- 他産業の派遣先選定・研修内容検討、派遣先の面談を経て、個別課題に応じた研修の実施

【活動の成果】

- (1) 経営ビジョン作成研修では、我が家の経営を調べ、所得や品目、経費を把握しビジョンを作成することで、今後の課題が明らかになり、経営参画に向けた意識が醸成されました。
- (2) 県域の経営発展研修では、講義やワークショップを通じ、マーケティングを意識した経営視点を習得しました。
- (3) 他産業派遣研修では、店舗運営や接客、商品のPR方法や連携レストランや農産物販売会社の経営視点を習得しました。

(取組期間：平成24年度～25年度)

(No.3) 水田農業の永続性のある担い手を目指して！

～水田農業担い手の育成と経営力強化に向けた取り組み～

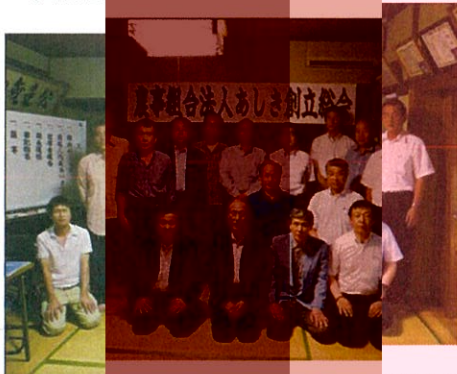
【対象の概況】

○農事組合法人	12 法人
○個別大規模農家(概ね10ha以上)	53 戸
○機械利用組合	19 組織

【課題化の背景】
水田農業を維持発展させるためには、水田農業の担い手育成と経営力強化が課題となっています。
そこで、集落営農組織の法人化、農事組合法人及び個別大規模農家の経営基盤強化の取り組みを進めました。

- 【活動の内容】
- 集落営農組織の法人化
 - 法人化検討会の開催
 - 法人化や地域の実態に沿った法人化支援
 - 組織組合法人及び個別大規模農家の経営基盤強化
 - 農事組合系などの法人運営支援
 - 作業・麦・大豆の収量及び品質向上の栽培講習会や現地検討会の開催
 - 水稻などの適期管理情報の発信
 - 大豆の大規模農家の勉強会の開催
 - 若手生産性向上の実証ほのび設置、調査、検証

- 【活動の成果】
- 集落営農組織の法人化
 - 筑紫地域において、平成23年度に「農事組合法人あしき」が設立され、糸島と筑紫地域で12法人になりました(写真)。
 - 農事組合系法人及び個別大規模農家の経営基盤強化
 - 水稻、麦、大豆、飼料用米などの作付面積増加により、9法人と39戸の大規模農家が規模拡大しました(図)。



写真「農事組合法人あしき」の設立総会

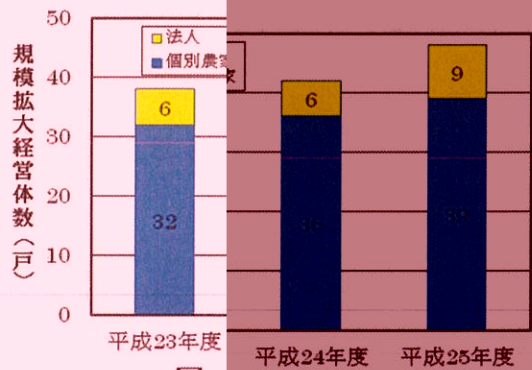


図 規模拡大経営体数 (取組期間：平成23年度～25年度)

(No4) 望まれる米・麦・大豆づくり ～生産拡大と品質向上に向けた取り組み～

【対象の概況】

○水稲作付面積	3,901ha
(うち採種)	32.3ha)
○麦類作付面積	1,211ha
(小麦)	543ha)
(大麦)	465ha)
(裸麦)	203ha)



【課題化の背景】

県育成新品種「元気つくし」、「ちくしW2号」のなっています。

そこで、昨年に引き続き、米麦の生産拡大及び品質向上に向け、JAや関係機関と連携し、地域座談会での推進及び現地での施肥を進めました。

【活動の内容】

(1) 県育成水稲・麦の生産拡大と品質向上

○施肥改善実証ほの設置、調査、検証

○栽培管理徹底のため、栽培講習会や現地互評会を随時実施

【活動の成果】

(1) 県育成水稲・麦品種の生産拡大と品質向上

○「元気つくし」は、年々増え107ha(22年産)となりまして。(図1)

一等米比率は他品種の変動に比べ、昨年から8%以上で安定しています。(図2)

○「ちくしW2号」は、88ha(22年産)から134ha(25年産)と増えました。(図1)

穂揃期追肥の徹底により、タンパク質含有率は11.5～12%で安定しています。

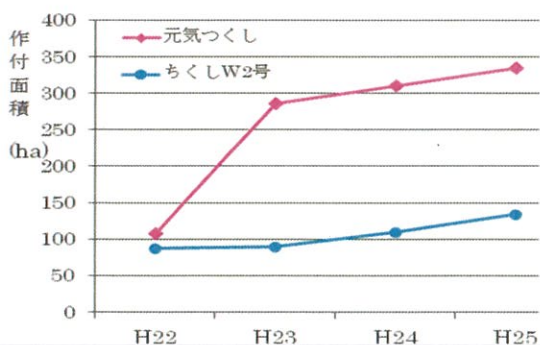


図1 「元気つくし」、「ちくしW2号」の作付面積

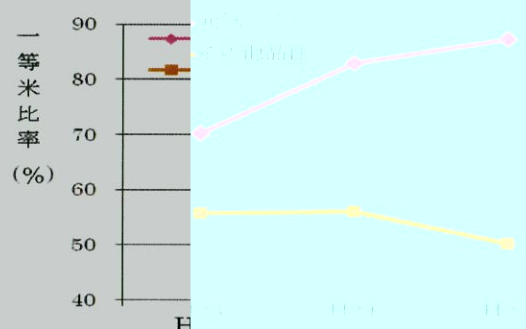


図2 「元気つくし」の一等米比率
(取組期間：平成25年度～平成28年度)

(No5) 「あまおう」の生産力向上と産地担い手の育成

～イチゴ部会青年部、女性部の資質向上を進めています～

【対象の概況】

○JA 糸島いちご部会	121 戸
うち いちご青年部	26 名
うち 新規参入者	3 名
○JA 福岡市いちご部会	39 戸
うち 青年組織	10 名



写真 女性部の現地研修

【課題化の背景】

いちご産地では、部会員が年々減少傾向で、規模拡大の動きが少ない中、の 23%に後継者が残っています。生産力向上を中心的に牽引する青年部の急務となっています。また、経営主を支える女性の資質向上を目指していま

部会
部会員
育成が
ます。

【活動内容】

(1) 産地規模の維持拡大

- 栽培技術向上のため、現地講習会を開催
- 個別農家の収量分析を行い、改善方策を提案
- 厳寒期の草勢維持対策のため、生産安定技術確立実証ほ設置

(2) いちご部会担い手の育成

- 青年部や女性部を対象に、講習会（厳寒期管理、炭そ病対策）を実施
- 青年部を対象に次のことを実施
 - ・現地講習会、優秀者生産ほ場調査
 - ・雇用型経営育成カウンセリング
 - ・イチゴの大規模生産者の視察を行うなど雇用型経営研修会
 - ・「大規模経営」「技術向上」などをテーマに先進地事例調査

(写真)

【活動の成果】

(1) 産地規模の維持拡大

4 t/10a 以上の農家は 80 戸から 91 戸に増え、生産力向上が図られま

ました。

(2) いちご部会担い手の育成

後継者が 5 名増加しました。4 t/10a 以上の青年部員は 19 名から 21 名に増え、部会全体をけん引しています。

名に増

(3) 常時雇用者が 16 名 (7.3%)、臨時雇用者が 72 名 (61%) と雇用を活用する農家が増加しています。また、戸当たり平均作付面積は 23.8 a と県内 2 位、収量、売上げは県内 3 位で、トップ産地の 90%まで近づきました。

用する
2 位、

(取組期間：平成 23 年度～25 年度)

5 年度)

(No6) ブロッコリーの根こぶ病防除と出荷平準化による安定出荷 ～総合防除対策を取りまとめ、出荷予測システムの活用～

【対象の概況】

- JA糸島ブロッコリー部会 28戸 150ha
- JA福岡市ブロッコリー部会 17戸 9ha
- JA筑紫ブロッコリー部会 16戸 16ha

【課題化の背景】

ブロッコリー栽培において、根こぶ病蔓延による収量低下や出荷量の不安定が課題となっていました。そこで、根こぶ病の発生軽減や出荷予測システムを活用し、出荷量平準化へ取り組むことになりました。



写真 根こぶ病対策啓発パンフレット

【活動の内容】

- (1) 根こぶ病の発生軽減
 - 根こぶ病の総合防除対策周知徹底のため、根こぶ病防除対策協議会と連携し、啓発パンフレットを作成、対策講習会を実施（写真）
 - 根こぶ病対策実証圃の設置（土壌診断による土壌改善処方箋の提示）
 - 定期的な巡回し、対策実践を徹底
- (2) 出荷量の平準化（図1、図2）
 - 農総試が開発した出荷予測システムを活用し、定植モデルを提示、出荷量平準化へ誘導
 - 更なる山谷改善に向け、定期的に出荷予測値を修正、提示

【活動の成果】

- (1) 根こぶ病の発生軽減
 - 啓発パンフレットにより産地全体に根こぶ病対策を周知、被害が懸念される圃場では、積極的に石灰燐肥や薬剤による防除対策が実施されました。
- (2) 出荷量の平準化と産地情報の発信
 - 定植モデルを活用した計画作付農家が61戸に広がり、市場等に産地情報を届け、信頼性向上が期待されています。

図1
出荷量平準化へ誘導

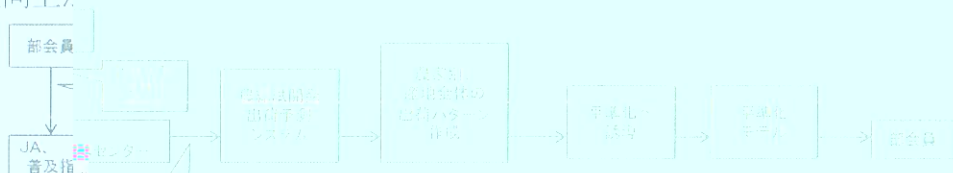
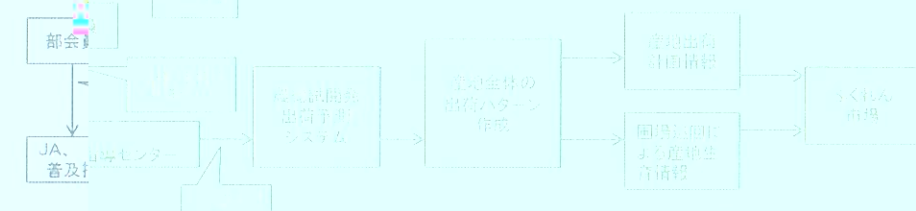


図2
産地情報の発信



(取組期間：平成23年度～25年度)

(No7) キクの安定生産に向けて！

～ キク茎えそ病発生拡大防止に向けた取り組み ～

【対象の概況】

○糸島菊共選出荷組合	16戸	14ha
○観音小菊共選出荷組合	5戸	455a
○オリジナル系ギク研究会	6戸	169a

【課題化の背景】

糸島地域は県内2位の栽培面積を占めるキク主要産地で、平成24年度発生地域及び面積が拡大した「キク茎えそ病（ウイルス病）」の対策が急務とされています。そこで、キク茎えそ病の発生拡大防止に向け、病害の症状（写真）や発生防止のための取り組みを進めました。

【活動内容】

- (1) キク茎えそ病対策会議（生産者・JA・普及指導センター）の実施
 - 地域一斉防除の提案
 - 無病株の確保
 - 栽培品種の検討
- (2) 病害虫防除講習会を実施（図）
 - 発症株の写真入り資料を配布し、症状を周知、早期発見を徹底
 - スリップス防除ローテーション表の配布、活用の推進

【活動の成果】

平成24年度にはキクの全作付面積のうち7%で発生していた茎えそ病ですが、平成25年度では3%の発生に抑えられました。



写真 キク茎えそ病の症状
(丸印の部分：えそ症状)

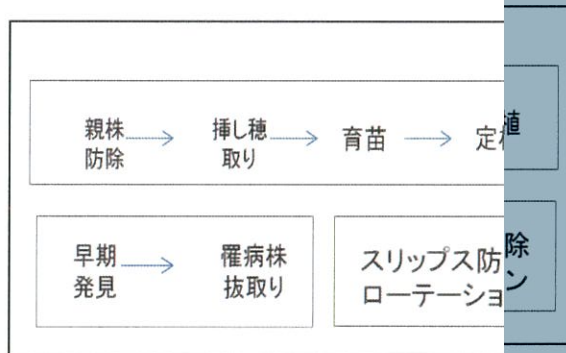


図 キク茎えそ病防除体系

(取組期間：平成24年度～26年度)

(No8) ホオズキの戸当たり販売額が過去最高に上がった！

～酷暑と病害虫の多発する中で、品質維持を支援し販売額が拡大～

【対象の概況】

○JA 福岡市ほおずき部会 11戸 191 a

【課題化の背景】

管内のホオズキは、病害虫の被害、日照不足による実とび、酷暑による着色不良など、品質低下が問題となっています。そこで、品質向上に向けて、土壌改良、防除の徹底、植え込み本数の低減、エスレル使用の適正化などの取り組みを進めました。

【活動内容】

(1) 全部会員のホオズキ作付予定地の土壌改良

○土壌診断結果に応じた石灰と肥料の投入量を、部会員に示しました。

(2) 病害虫防除対策を強化

○ローテーション散布ができるよう、系統別にまとめた登録農薬の一覧を作成・配布し、適正な防除を呼びかけました。

○スリップスやヤガ類の発生状況について情報を随時提供し、適期防除を促しました。

(3) 着色促進技術等を提案（写真）

○展示ほを活用して適正な茎立ち密度に誘導しました。

○着色促進のためのエスレル使用法について講習会を開きました。

【活動の成果】

全国的な猛暑による品質低下や病害虫の大発生にも負けず、一定の品質のホオズキが生産・販売できたので、部会の各戸当たり販売額は過去最高となりました（図）。福岡市は県内でも有数のホオズキ産地として期待されています。



写真 色づきの良いホオズキ

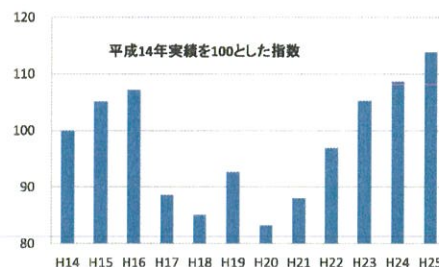


図 ホオズキの戸当たり販売額
(取組期間：平成24年度～26年度)

【目的】 かんきょう産地の維持・活性化に向けて！

～糸

【対象の概

- JA糸

【課題化の

糸島地域

地規模の縮

そこで、

産・拡大や

【活動の内

- (1) 担い

- 園地

- (2) 高品

- 栽培

- 定期

- 新規

- (3) 有利財

- 新品種

【活動の成果

- (1) 担い手

- ここ数

- (2) 高品質

- きめ細

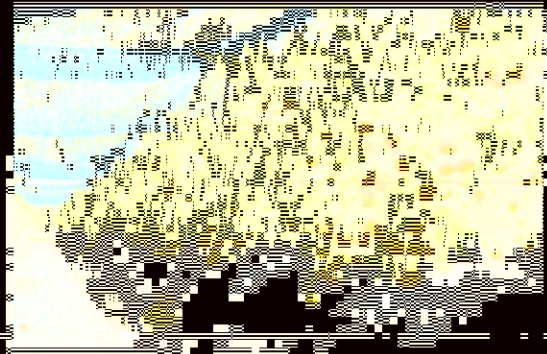
- 高畝つ

- (3) 有利財

- 新たに



写真1



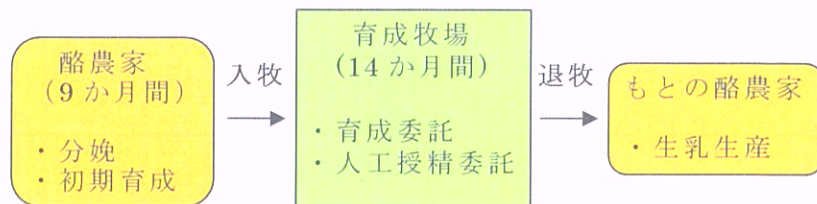
【活動内容】かんきょう産地維持・活性化に向けて！

(No10) 酪農経営の生産基盤強化

～繁殖技術の向上と自給粗飼料有効活用を目指して～

【対象の概況】

ふくおか県酪農協
福岡支所管内 24 戸
西事業所管内 39 戸



【課題化の背景】

飼料価格や初妊牛導入価格の高値傾向が続き、酪農経営は大変厳しい状況に直面しています。

図 自家育成牛の育成フロー

そこで、牛群検定データ（繁殖、乳量、乳質等）と自給粗飼料分析データ（主に粗蛋白、総繊維）を活用して、繁殖技術の向上による生乳生産拡大や優良後継牛の確保、自給粗飼料活用促進へ向けた取り組みを進めました。

【活動内容】

(1) 繁殖・育成技術の向上

- 飼養管理向上研修会
- 牛群検定データを活用した飼養管理改善支援
- 育成牧場で農家毎に受胎率を調査し、入牧前、入牧後の問題点を把握（図）

(2) 自給粗飼料分析データを活用した飼養管理、粗飼料栽培技術の改善

- 自給粗飼料分析データを、飼料給与及び飼料作物栽培方法改善に活用
- 自給粗飼料栽培講習会

【活動の成果】

(1) 繁殖・育成技術の向上（図）

分娩後初回授精日数 100 日以下の農家戸数が 28 戸から 38 戸に増加し、適期の授精が促進されました。また、育成牧場の年間調査から、育成牧場へ委託する前の飼養管理が受胎率に大きく影響することがわかりました。

(2) 自給粗飼料分析データを活用した飼養管理、粗飼料栽培技術の改善

自給粗飼料の粗蛋白や総繊維の数値により、蛋白の多い粗飼料の利用や濃厚飼料の量の見直しなど、分析値活用農家が 18 戸から 35 戸に増加しました。また、分析結果を施肥や刈取り時期など栽培技術改善に役立てることができ、良質の粗飼料生産へつながりました。

（平成 23 年度～25 年度）

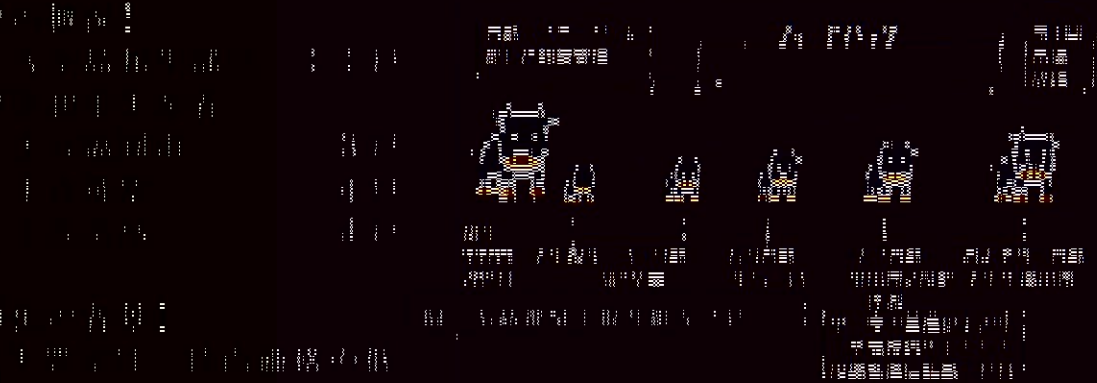
(No. 1) 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。

【対象】
○ 肉用牛の飼育
○ 肉用牛の生産

【課題】
肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。

【活動】
(1) 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
○ 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
○ 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
○ 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
(2) 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
○ 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
○ 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。

【活動】
(1) 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
子牛の飼育と生産の向上を図る。
子牛の飼育と生産の向上を図る。
子牛の飼育と生産の向上を図る。
一定の飼育と生産の向上を図る。
頭数を増やす。
(2) 肉用牛の飼育と生産の向上を図る。
去勢率を上げる。
「博



肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。

肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。

肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。肉用牛の飼育と生産の向上を図る。



写真 肉用牛の飼育と生産の向上を図る

(No12) 安全・安心農産物の生産拡大！

～GAPの導入・レベル向上～

【対象の概況】

○管内JA共同販売部会（観賞作物・畜産関係部会は除く）
（水田農業：10部会、野菜：32部会、果樹：15部会）

【課題化の背景】

GAPについては、5年程前から導入が始まり、部門によっては、90%を超えています。導入はまだ始まったばかりで、GAPの導入推進と工程管理の改善が必要な項目を組織的に取り組む等内容の高度化が必要です。

【活動の内容】

JAと連携し、部会役員、場合によっては、部会員全体に対し、GAPの導入・取り組み内容の改善へ向けて、意識啓発を行いました。

【活動の成果】

(1) GAP導入

○JA独自の取り組み、JA全農ふくれんの推進の効果もあり、平成22年度で61%だった導入組織率が、96%まで伸びました。（表）

(2) GAPのレベル向上

○取組内容の改善についても、JA独自の取り組みや、普及指導センターの働きかけに対するJA担当者の理解・協力により、7部会でチェックリストの項目見直し、チェックリストに対して理解を深める活動や実際に農家に出向いての確認活動が実施されました。

表 GAP導入組織率及びレベル向上組織数

	H22	H23	H24	H25
導入組織率 (%)	61	82	93	96
レベル 向上組織数	—	1	5	1

(取組期間:平成23年度～25年度)

2 各種表彰の紹介

(1) 表彰名：農林水産大臣賞

次世代を担う若手地域リーダー部門の

○受賞者名：合同会社三宅牧場

○経営内容：農産加工直売（加工量 3.6t、うるち米 2.8t）

主な生産品目：よもぎあん餅、誕生餅、博多地どりおにぎり、ポン菓子等

○活動の概要：「安全・安心・美味の理念に沿って、牧場や地元産の加工、手作りにこだわった商品づくり。産地消の重要性、地域の食の伝統に貢献。子育て世代の女性を積極的に雇用し、就業時間の工夫等により働きやすい職場環境を整えるなどの地域活性化の活動が評価されました。

（農山漁村

男女共同参画優良活動表彰：

のうち地域参画部門）

三宅静恵氏（筑紫野市）

3.6t、うるち米 2.8t）

博多地どりおにぎり、ポン菓子等

おいしい食を届けます。」

原料を使用し、無添

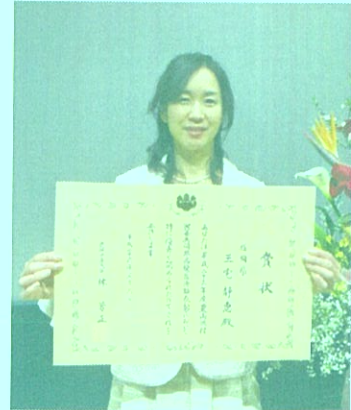
り。食の大切さや地

を伝えることで食育

的に雇用し、就業時

環境を整えるなど地

生化の活動が高く評



(2) 表彰名：優秀賞

（福岡県農林水産まつり：園芸の部）

○受賞者名：JA筑紫アスパラガス部会

○経営内容：1.38ha、13戸

○活動の概要：積極的に講習会を開催し、情報交換も盛んに行われており活気あふれる部会である。

部会員の技術向上や作付面積拡大、女性役員への積極的登用で女性の社会的参画や担い手育成に取り組んでいることが高く評価されました。

園芸の部）

部会

催し、情報交換

部会である。

、女性役員への積

手育成に取り組

組



(3) 表彰名：九州農政局長賞

（福岡県花き品評会：農産物の部）

○受賞者名：宗千二氏（福岡市）

○経営内容：ストック 1ha、トルコギキョウ 0.5ha

○活動の概要：対馬暖流の影響を受け冬季温暖なストックを、北崎地区の気候を利用して、無加温でストックを育てています。今回は、「カルテックレッド」を、バランスよく、しっかりとした草姿に仕上げ高く評価されました。

の部）

ギキョウ 0.5ha

け冬季温暖な

でストックを

育てています。

今回は、「カルテ

ックレッド」を、

バランスよく、

しっかりとした

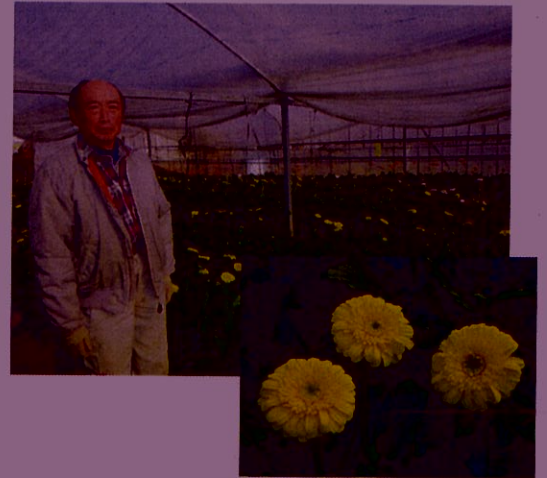
草姿に仕上げ高

く評価されまし



(4) 表彰名：福岡県知事賞
 (福岡県花き品評会：農産物の部)

○受賞者名：小川芳則氏 (福岡市)
 ○経営内容：ガーベラ 15ha、花木 10 ha
 ○活動の概要：昨年結婚した後継者夫婦とともに、ガーベラ栽培に取り組んでいます。品種選びに若い感覚を取り入れ、ガーベラづくりに新風を起しています。今回は茎が太く、ボリュームのある花に仕上げたことが高く評価されました。



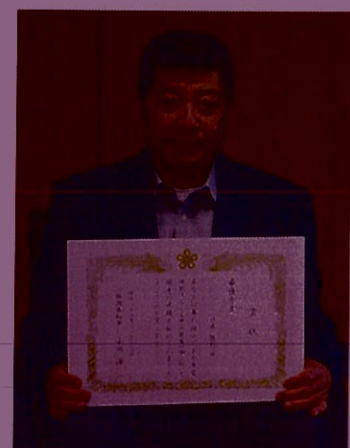
(5) 表彰名：銅賞
 (第37回九州管内系統和牛枝肉共励会)

○受賞者名：(有)三宅牧場 (代表：三宅静代氏、筑紫野市)
 ○経営内容：肥育牛320頭
 ○活動の概要：県産の稲わらを腹いっぱい食べさせ、牛1頭1頭の顔を見ながらこまめな飼養管理を行っており、立派なサシの入った枝肉の生産技術が高く評価されました。
 今回は、一昨年の金賞に続く入賞となり、肥育技術の高さが示されるとともに、「博多和牛」の認知度向上に向けて大きく貢献しています。



(6) 表彰名：福岡県知事賞
 (第8回ふくおか良質堆肥コンクール)

○受賞者名：竹原勝利氏 (糸島市)
 ○経営内容：養豚 母豚65頭
 ○活動の概要：JA糸島養豚部会長として糸島豚の生産に尽力され、発酵床豚舎でのびのび育った豚は「美豚」の名で販売されています。今回はコンクールでは、特に作物に対して安全・安心な腐熟が進んだ堆肥である点が高く評価されました。



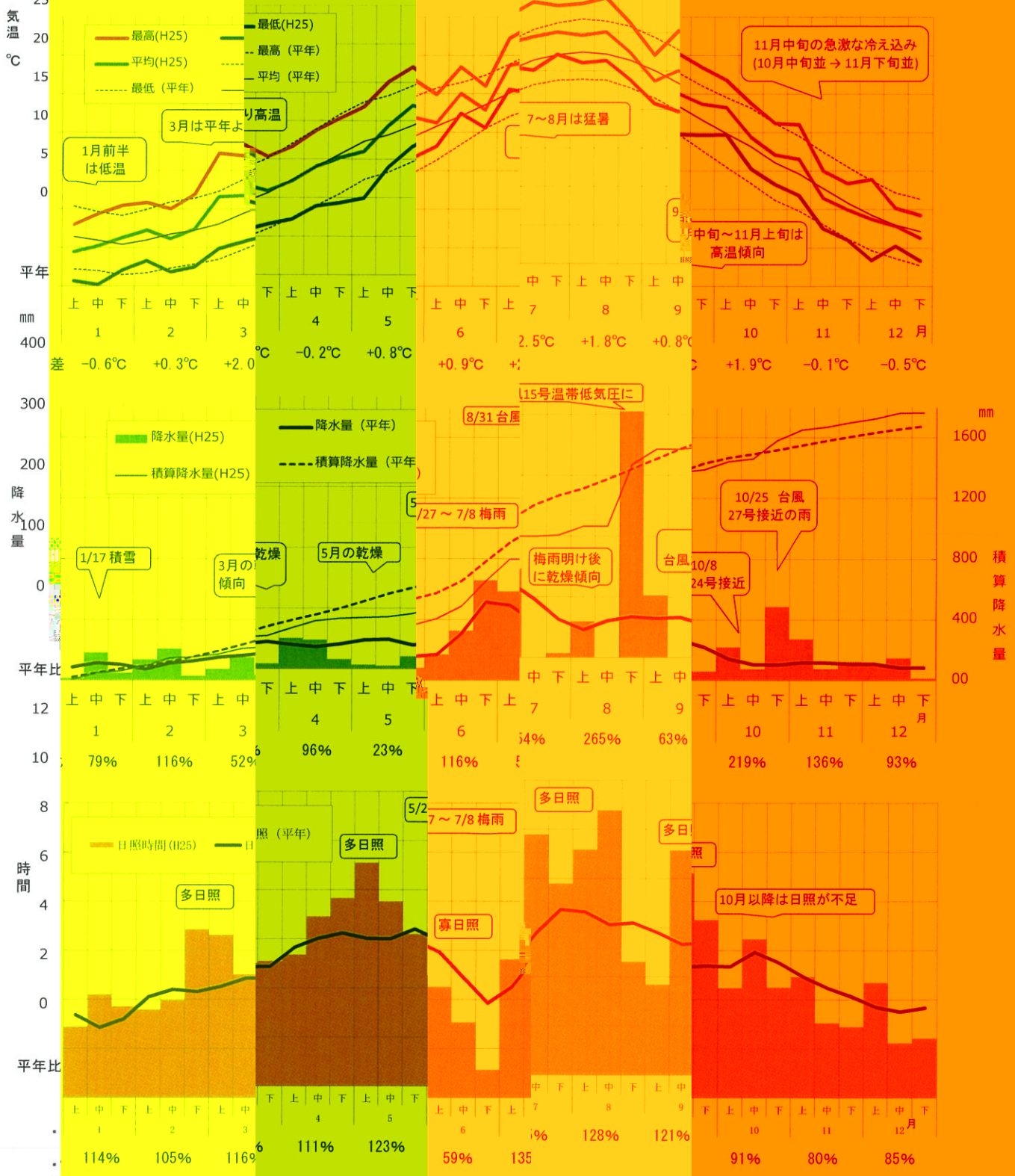
3 資料一覧

(1) 現地活動情報一覧

情報No	タイトル	執筆課係名	発信日
No. 1	福岡県トップの高品質麦産地を目指して！	水田農業	25. 4. 12
No. 2	若い力で産地を活性化！	果樹	25. 5. 20
No. 3	糸島の農産物を消費者へ！	水田農業	25. 5. 22
No. 4	高品質麦の安定生産を目指して！	水田農業	25. 6. 10
No. 5	就農目指して、いざ巣立ち	地域	25. 6. 7
No. 6	糸島の魅力をPR！	水田農業	25. 6. 12
No. 7	土着天敵を活用した新しい育苗期防除に取り組もう！	野菜	25. 6. 17
No. 8	阿志岐小学生が、楽しそうに田植えを！	果樹	25. 7. 4
No. 9	なす部会全員で「ネバアザミ」の土着天敵導入へ	野菜	25. 7. 10
No. 10	新たな担い手育成に向けて	地域	25. 7. 10
No. 11	新規就農者の経営確立を支援	地域	25. 7. 16
No. 12	女性の視点を活かした経営を描く	地域	25. 7. 17
No. 13	生花店に求められるトルコギキョウとは？	花き	25. 7. 24
No. 14	イノシシ、サルの行動から被害対策を学ぶ	地域	25. 7. 25
No. 15	暑さに負けない米づくりを目指して！	水田農業	25. 7. 30
No. 16	根こぶ病を克服しよう！	野菜	25. 8. 9
No. 17	春菊の夏季安定生産のための土づくりを！	野菜	25. 8. 9
No. 18	会員自ら講師となって想いを語る！	地域	25. 8. 9
No. 19	特産花きの「クルクマ」をPR！	花き	25. 8. 20
No. 20	先輩農業者が新規就農者を激励	地域	25. 8. 27
No. 21	糸島の水田農業を担う若い農家が集結！	水田農業	25. 9. 3
No. 22	「博多和牛」に勲章がまたひとつ！	畜産	25. 9. 25
No. 23	自給粗飼料の品質向上を目指して	畜産	25. 10. 15
No. 24	みかんオーナー園で「秋」を満喫！	果樹	25. 11. 6
No. 25	猛暑を乗り越えた花！	花き	25. 11. 14
No. 26	糸島の普通作若手農家が集結！	水田農業	25. 11. 18
No. 27	良質堆肥ここにあり！	畜産	25. 11. 25
No. 28	ジャガイモとれたよ！	畜産	25. 11. 25
No. 29	J A青壮年部がカンキツの低木化作業を受託！	果樹	25. 11. 26
No. 30	「博多和牛」を食べにきんしゃい！	畜産	25. 11. 28
No. 31	地域を担う農業青年が熱い思いを語る！	花き	25. 12. 11
No. 32	高品質・高収量な「元気つくし」を目指して！	水田農業	25. 12. 19
No. 33	女性農業者の資質と「食の技」の向上！	地域	25. 12. 19
No. 34	徐々に広がる天敵利用のきゅうり栽培！	野菜	26. 1. 27
No. 35	J A筑紫麦出荷者部会中間管理講習会を開催！	水田農業	26. 1. 31
No. 36	消費者に食と農の大切さを伝える	地域	26. 1. 31
No. 37	六次産業化による後継者育成について！	地域	26. 2. 28

※「活動情報」の内容は、下記の福岡県ホームページの出先機関(福岡普及指導センター)に掲載しています。
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/25nendokatsudoujyouhou.html>

(2) 平成25年の気象概況 (気温・降水量・日照時間：旬ごと)



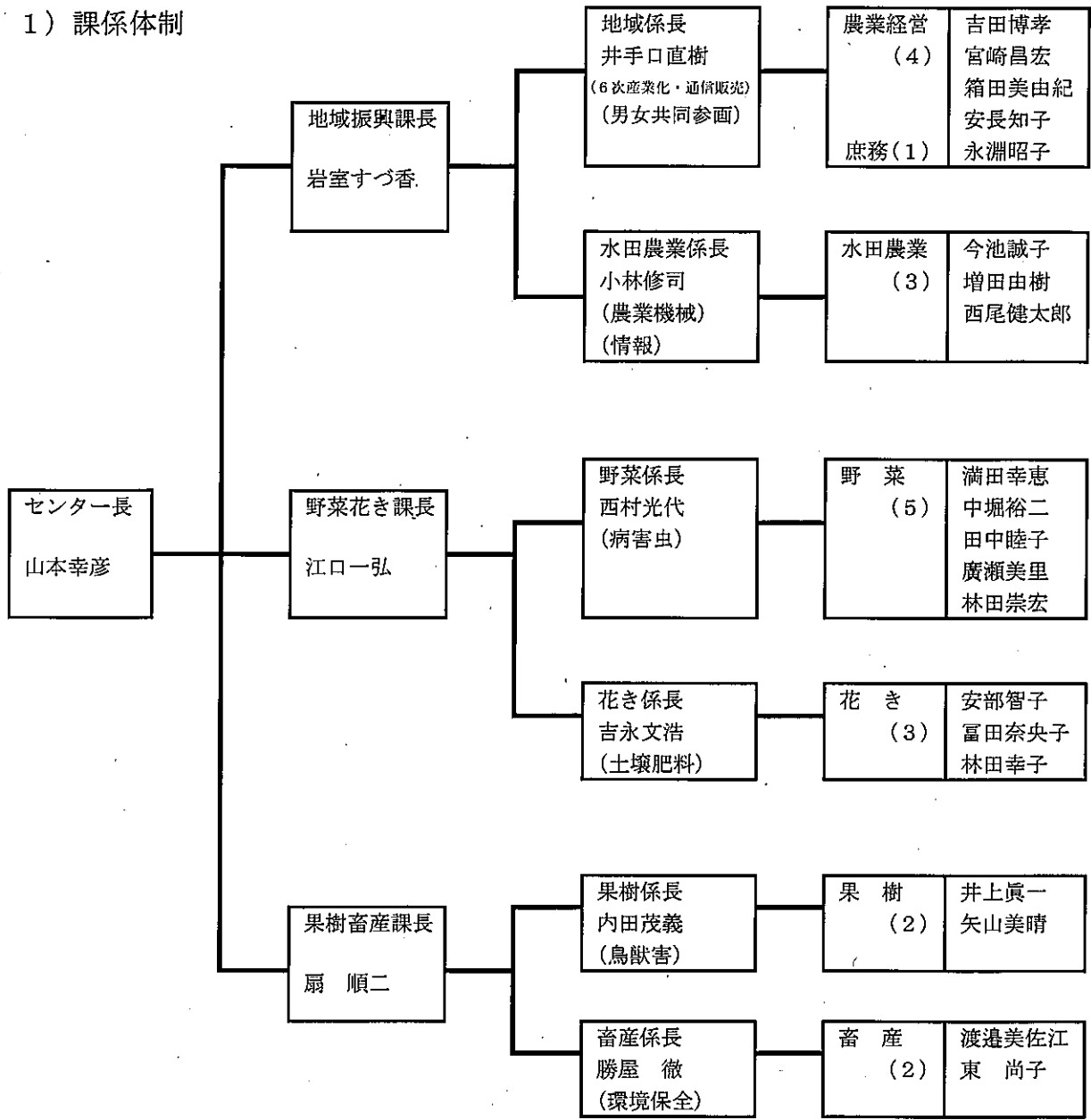
平成25年は、3月と5月の少雨と温暖傾向、入梅と梅雨明けの早さ、晩秋の急激な冷え込みがみられました。台風15号、24号、27号などの接近が強風・大雨をもたらしたため、梅雨明けが早く、その後乾燥したため大豆の発芽が遅れ気味となり、その後の高温多雨の影響がありました。夏の猛暑は生育不良やハダカ等の原因となるなど、園芸作物も気象に大きく影響を受けました。

梅雨時期の日照不足、その後の猛暑と夏の乾燥、秋の高温多雨と日照不足は苗いもちの発生原因となり、梅雨明けが早く、普通作物の作業・収量・品質に大きな影響がありました。

前原アメダスデータを基に作成

(3) 普及指導センターの活動体制

1) 課係体制



() 内は窓口担当

2) 班体制

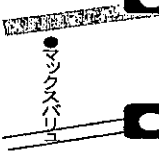
ア 地域班

- ・糸島班 (糸島市)
- ・筑紫班 (筑紫野市・大野城市・太宰府市・春日市・那珂川町)
- ・福岡班 (福岡市)

イ センター内運営事項における推進班

- ・青年農業者育成班
- ・情報推進班
- ・安全安心推進班
- ・経営体育成推進班
- ・女性農業者支援班

周船寺西



●周船寺
小学校



飯氏北



飯氏 交差点

福岡普及推

福岡県

〒819-03

ホームペーシ

E-mail